

『童謡』が流れる学校づくり

「学校に童謡を流したいね」と、よくある雑談の中で、校長先生がボソツと言った。

童謡が流れる学校かあ。ちょっといいなあ。この学校の卒業生には童謡の作詞家もいたことだし。情操教育にもいいなあ。

先生方に提案してみることにしようか。



教頭物語

職員室の窓から校庭を眺めながら、童謡が流れる学校づくりを先生方に伝えて、先生方に活躍してもらったための構想を練った……。

翌日……。

「教務主任の先生、昼休みなどに童謡を流すってアイデア、どうですかね。」

教務主任は先生方との何気ない会話のなかで、童謡の話を出してくれた。すかさず、自分もその会話の中に入れていく。

「音楽主任の先生、音楽の教科書に載っている童謡って、どんなのがあるんですか。」

「情報主任の先生、学校にある童謡のCDって、どんなのがあるんですか。こういう歌、知ってますか。」

「放送委員会担当の先生、放送で流すCDの数、足りていますか。」

そうやって、関係する分掌の担当者の意識を童謡に向けてみた。数日後……。

「童謡のCD、買ってみたいなかい。」

会話の中で提案してみる。

何人かの先生が、カタログなどを調べてくれるようになった。

運営委員会で、中心となる組織を提案した。

職員会議でも好意的に理解されて、子どもたちへの投げかけもされ始めるようになっていった。



学校便りでも、童謡が流れ始めたことを伝えてみた。

保護者や地域の人たちが学校に来る公開日。朝や昼休みに童謡を流してみる。

「童謡を、流しているのですね。心が落ち着くし、あたたかくなりますよね。」と、保護者の声。

「そして、学校には毎日『童謡』が流れている。」

